

施策評価シート

幹事部局

環境生活部

施策の名称	VI-2-(2) 文化芸術の振興
施策の目的	広く県民が文化・芸術を鑑賞し、参加し、創造しながら、生き生きと心豊かに暮らせる地域をつくれます。
施策の現状 に対する評価	<p>①(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で文芸フェスタを中止としたほか、各事業の参加者数も硬筆アート展を除いて減少した。そのような中で、県内で活動する文化芸術団体を学校等に派遣して、ワークショップや公演を行う「文化芸術次世代育成支援事業」は、子供たちのコミュニケーション力や情緒の発育に効果が高いことが学校等から高い評価を受けた。当該事業については今後、教育的視点に加えて文化的視点での成果の見える化が課題として挙げられる。 青少年の文化活動の推進については、高校生の文化部活動参加率は、前年度の29.6%から32.4%となっており、文化芸術次世代育成支援等事業等の継続の成果が感じられる。 <p>②(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の機能強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立文化施設の入館者数は、新型コロナウイルスの影響で目標を大きく下回ったが、換気や消毒の徹底等の感染防止対策を実施し、安心して利用してもらえる環境を整備した。 県立美術館では、企画展の中止や延期を余儀なくされたが、来館の予約制導入により三密回避を図り、安心して来館できる環境を整備した。 芸術文化センターにおいても石見美術館の企画展が中止や延期となったが、県立美術館のコレクションを活用した北斎展が好評を博し、目標人数9千人のところ1万人を超える入場者があり、コロナ禍にあっても目標を達成した。いわみ芸術劇場では鑑賞事業がほとんど中止となったが、地元で活動する団体を対象とした育成事業等については感染症対策に留意しながら実施した。 県民会館においてもコンサート等の中止・延期が相次いだが、映像作成・配信等により文化芸術活動を支援する取組を行い、新たな展開を図った。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、感染症対策の充実や、リモートや配信の活用推進(グラントワ・カントートにおける映像での出演やオンラインセミナー、しまね伝統芸能祭のライブ配信等)を図った。
今後の取組 の方向性	<p>①(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民文化祭への参加については、文化芸術次世代育成支援事業のワークショップの成果作品を県展に出品する、県展の受賞作品を「島根文芸」の表紙に起用する等、各事業が連携してPRし、より多くの県民が参加できるよう、各文化芸術団体等と協力しながら進めていく。 青少年の文化活動推進については、学校・地域・文化芸術団体等と連携して、児童・生徒に多様な文化芸術に触れる機会等を充実させ、文化活動への意欲・関心を高めていく。また、高校生の文化活動において一層の活性化を図るため、効果的な支援方法を検討する。 <p>②(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立美術館では、貴重な収蔵品などを活用し、親子向けの企画や館内外での展示関連のイベントなどを充実させる。石見美術館では、ファッション等、特色あるコレクションを活用した企画、複合施設の特性を生かしたイベントの開催や情報発信の工夫などを行う。いずれもアフターコロナを見据えた施設の魅力向上と、配信等を活用したPRの強化を図る。 県民会館、いわみ芸術劇場は、感染症拡大防止を引き続き充実させ、安心して利用してもらえる環境整備を図る。また館内でのホールイベントやワークショップの充実を図るとともに、公立文化施設・教育施設を活用したアウトリーチ活動(関係団体等と連携したイベント等の実施)を積極的に展開し、県民の文化芸術事業への参加を促進していく。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-2-(2) 文化芸術の振興				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	創造的な文化活動推進事業	文化活動を行う県民	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する	11,828	24,360	文化国際課
2	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業	文化芸術活動を行う県民	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕	116	170	文化国際課
3	芸術・文化の情報発信・収集事業	市町村、文化団体、文化施設、県民等	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る	10,182	9,795	文化国際課
4	県立美術館事業	県民及び来館者	美術に対する県民の興味や関心が高まる地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する	416,067	372,747	文化国際課
5	芸術文化センター事業	県民及び来館者	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる	533,614	498,151	文化国際課
6	島根県民会館事業	県民及び文化芸術団体など	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる	291,024	271,623	文化国際課
7	青少年文化活動推進事業	児童・生徒	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。	6,694	8,676	社会教育課
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		創造的な文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	文化活動を行う県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する		11,828	24,360
			うち一般財源 (千円)	5,334	9,160
今年度の取組内容	県民文化祭の開催や次世代育成支援等、県民が企画段階から参加し創り上げる島根の芸術文化の事業を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	文化芸術次世代育成支援事業において、実施団体と調整を図り離島地区での開催を強化。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県民文化祭参加者数【当該年度4月～3月】	目標値		34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	人	単年度値
		実績値	32,620.0	17,840.0						
		達成率	—	52.5	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		【各県民文化祭主催事業参加者数】 <ul style="list-style-type: none"> ①文化芸術次世代育成支援事業 2,372 (単位:人) ②県総合美術展(県展)開催 7,663 ③特別参加展(硬筆アート展)開催 785 ④文芸作品募集及び『島根文芸』発行 736 ⑤しまね文芸フェスタ開催(中止) 0 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<p>「島根県文化芸術振興条例」の制定を踏まえて、文化芸術の裾野の拡大、次世代育成に主眼をおき、県民文化祭への若者の参加拡大や文化芸術の担い手の育成などの取り組みを推進している。平成24年度から開始した文化芸術団体が学校などに向けて実技指導・合同公演を行う文化芸術次世代育成支援事業は、各実施団体と連携して多くの学校の参加につながっている。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小せざるを得なかったが、感染症対策を講じながら体験ワークショップ等を実施したことで、文化芸術のもたらす心の潤いや活力等の効果を再認識することにつながり、参加者からも好評を博した。</p>
課題分析	① 課題	<p>「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者や事業が固定化・高齢化し、新たな取組みが少ない傾向にある。 ・文化芸術次世代育成支援事業について、県内文化団体の参加や学校からの実施希望は年々増えているが、国からの助成金の額により事業規模が左右され、要望に応えられない場合があるほか、事業の安定的な実施の妨げとなっている。
	② 原因	<p>上記①(課題)が発生している原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催事業について、県展、文芸作品公募への小中高校生の参加が少ない。 ・県民文化祭の知名度が低く、共催事業になることのメリット感があまりない。 ・文化芸術次世代育成支援事業への助成を受けている国の補助事業の採択件数・採択額が近年減少傾向にあり、採択されない場合もある。
	③ 方向性	<p>上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民文化祭については、幅広い県民が参加できる開かれた文化祭にすることを旨とし、各事業間の連携を図り、積極的なPRに努める。 ・アフターコロナを見据えて県民文化祭の内容やあり方を見直し、文化芸術団体の自発的な取組みに繋げる。 ・共催事業については、市町村文化協会等への参加の働きかけ等を行うと共に、文化ファンドとの情報共有等を活用して新規参加団体の掘り起こしを図る。 ・文化芸術次世代育成支援事業については、目的を明確化したうえで国庫補助の採択審査に効果的な申請となるよう、事業内容の見直しや申請書記載の改善を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業			
目的	誰(何)を対象として	文化芸術活動を行う県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。		116	170
			うち一般財源 (千円)	116	170
今年度の取組内容		本県の文化の発展に貢献することが期待され、活動を奨励するにふさわしいものに奨励賞を贈り、これを顕彰する。			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・県内の文化活動の動向をメディアやインターネットでも注視する。 ・奨励賞の趣旨を鑑み、比較的低い年齢層の推薦を引き続き募る。 			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	島根県文化奨励賞の表彰件数【当該年度3月時点】	目標値		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	件	単年度 値
		実績値	2.0	2.0						
		達成率	—	100.0	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・本県文化振興への貢献が期待できる活動を行っているものを平成2年度から毎年1～2名表彰しており、令和2年度までに61個人・団体が受賞。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・受賞について新聞等でも報道され、文化奨励賞の存在や受賞団体の活動を周知することができた。 ・文化芸術活動分野ではかなりの若手と言える40代の個人を表彰できた 	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰対象者として推薦される件数が減少している。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の活動等を十分に把握できていない。 ・表彰制度の周知が十分にできていない。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・情報誌・TVなどからも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握していく。 ・県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組みを進める。 ・市町村・団体等に引き続き積極的な推薦を働きかける。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術・文化の情報発信・収集事業			
目的	誰(何)を対象として	市町村、文化団体、文化施設、県民等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る		10,182	9,795
			うち一般財源 (千円)	0	0
今年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・国等の芸術文化に対する助成情報等を収集し、速やかに、かつ確認しやすい形で、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供する。 ・助成を希望する事案について、市町村等から情報提供を受け、申請の可否、内容等の相談に乗る。 ・各種助成事業の活用状況(申請・採択件数等)を情報提供するなど、今後の取組の参考にしてもらい、助成事業の有効活用を努める。 			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		なし			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	(一財)地域創造ほか主要助成金等への県内申請件数【当該年度4月～3月】	目標値		43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	件	単年度値
		実績値	38.0	32.0						
		達成率	—	74.5	—	—	—			
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—			
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・国等の助成情報等は、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供している。 ・地域創造の助成金申請は、平成22年度以降、毎年度、平均4件程度の申請がある。 ・様々な助成事業を活用し、芸術文化に関わる人材や団体の育成・支援の取組が行われている。 (R2申請実績～自治総合センター:1件、日本芸術文化振興会:5件、エネルギー文化・スポーツ財団:17件ほか) 日本芸術文化振興会はR3より、応募団体から直接申請を行うこととなった。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成事業に関する情報を市町村や文化団体等に周知することで、中山間地域や離島等も含めた県内各地で文化・芸術的な活動が実施され、県民が芸術文化を鑑賞し、自ら参加する機会が増加している。 ・県民が生の芸術文化に触れることで、より興味・関心を高め、自主的・創造的な活動に繋がっている。
課題分析	① 課題	市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に国や各種団体の助成制度の情報提供をしているが、活用が一部に限定される傾向があり、広がりが見られない。
	② 原因	受け手側で情報が活用に関わらない状況があるものと推測され、各種制度の周知が行き渡っていない可能性がある。
	③ 方向性	誰でも閲覧することができる島根県のHPの文化振興のページに、細かい情報やリンクを掲載することで、現在各団体へ所属していない方や文化・芸術的な活動に興味がある、または既に関わりながら県との関わりのない方(団体)へ情報を発信することができ、ニーズの掘り起こしにより県内の芸術文化活動が広がると思われる。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		県立美術館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	美術に対する県民の興味や関心が高まる地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する		416,067	372,747
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成11年3月に開館した県立美術館において、企画展・コレクション展の実施、教育普及活動、調査研究等の美術館活動を実施し、県民の文化活動に資するとともに、県内外からの集客が図られるよう展示内容や企画展関連イベントの工夫、情報発信の強化などに取り組む。 施設整備による休館中も、再開館後の集客に向けて情報発信を続ける 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 再開館後の来館者確保に向けて、収蔵品に関するアウトリーチや広報事業を継続することとした。 				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】※R3年度は施設整備の予定	目標値		250,000.0	20,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	人	単年度値
		実績値	268,616.0	103,564.0						
		達成率	—	41.5	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 多くの来館が見込まれる夏休み期間に予定していた企画展をR3年度に延期した。 整理券配布と日時指定予約システム導入により、感染症対策として同時に観覧する人数を制限した。 お客様へのアンケート結果によれば、入館者の内訳は、全体としては50代から60代の割合が高く、50歳以上の方が大半を占めている。女性の割合が高い状況は変わらないが、企画展開催期間中は、大学生～40代の若年層に増加傾向が見られた。 感染症影響を受けつつも、企画展全体としては観覧者数目標達成率86.4%と、比較的堅調であった。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> SNSやオンラインでのプレスリリース配信システムの活用により、発信件数はR元年度より222件増加した。 商業施設など館外で行うワークショップが好評を得ており、再開館に向けた周知に効果を得ている。 美術館の目玉コンテンツの一つである浮世絵コレクションについて、webサイトの充実を図り、先述のワークショップ実施とあわせて美術館と浮世絵のイメージ戦略を推進している。 一方、企画展が開催されていない期間のコレクション展観覧者数については、告知強化を図ったものの大きな入り込みにはつなげられていない。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 集客が企画展の内容に大きく左右される。 企画展が開催されていない期間の集客が低調である。 美術品等の展示・保存にとって重要な照明設備や常に適切な温度・湿度管理ができる空調設備等の環境を整える必要があり、劣化による故障が頻発する。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 予算の制約がある中で、多くの誘客が可能となる企画展を継続的に開催することが難しい。 美術品等取得基金の現金残高僅少により美術品の購入がままならず、コレクションの魅力向上が阻害されているだけでなく、美術品の収集・保存・継承という美術館本来の役割を果たせていない。 コレクション展の内容を工夫しているが、県民の認知度が乏しい。 開館後の年数経過で、美術館自体の目新しさ、来館に繋がるきっかけが少なくなっている。 経年による施設設備等の性能劣化や老朽化が進んでいる。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員の研究成果や専門性を発揮したうえで、観光や予算を意識した企画ができるよう、県と指定管理者が緊密に連携する。 美術品等取得基金の買戻し制度充実等、好機に価値の高い美術品を取得できるよう環境改善を図る。 国内屈指の浮世絵コレクションを整理し、その魅力が国内外に広く認知されるための事業を展開することで、誘客と美術館そのもののファン獲得に繋げる。 収蔵品の保存と来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に修繕や設備の更新等を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術文化センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる		533,614	498,151
			うち一般財源 (千円)	200,822	198,280
今年度の取組内容		特定天井改修等の工事のため11月からはホール等一部の施設が休館となるが、美術館においては引き続き地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、魅力ある事業を実施する。			
昨年度に行った評価を踏まえて見直した点		<ul style="list-style-type: none"> 文化事業におけるリモートの活用や研修のオンライン化の実施。 11月からの休館期間に合わせ、石見地域の市町ホールと連携した館外での鑑賞活動の実施。 			
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】※R3～4年度は施設整備の予定	目標値		350,000.0	210,000.0	70,000.0	350,000.0	350,000.0	人	単年度値
		実績値	368,334.0	155,515.0						
		達成率	—	44.5	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、センター全体の入館者数は、目標に対して44.5%の達成率にとどまった。(開館以来最少) 美術館の企画展は4本の開催予定であったが、春季の企画展は中止、そのほかも期間の変更を行った。 指定管理者による文化事業についてもコロナ影響による中止が相次ぎ、鑑賞事業12本→4本、育成事業7→6本、文化芸術活動支援6本→5本の実施となった。そのような中で創造事業については計画で5事業3公演のところを助成金を活用して5事業7公演を実施した。 ボランティア団体と協働して運営を実施した。 島根県障がい者文化芸術活動支援センター「アートベースしまねいろ」との協働に取り組んだ。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの事業の中止や変更を余儀なくされたが、一方で配信やリモートが普及したこともあり、グラントワでも合唱の祭典「グラントワ・カンタート」を映像とリアルの融合という新しい形で取り組んだ。 来館者に安心して過ごしてもらえるよう、感染予防対策を徹底し、有事に備えた対応訓練を行った。 企画展の入館料について、展示の内容等により適切な額となるよう、弾力的な金額設定を行うこととした。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、首都圏始め都市部からの来客が望めない状況となっている。 空調設備等について利用者の苦情も増えており、今後の入館者数や利用者の満足度の維持に懸念がある。 修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。 舞台設備の故障や機能不全が増加しており、コロナ収束後の興行誘致に懸念がある。 美術館のコレクションの充実が進んでおらず、施設の魅力化や優れた美術品を後世に引き継ぐ使命が阻害されている。 文化芸術活動に取り組む人々の活動の停滞が懸念される。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しくなっている。 コロナ禍の収束が見通せず、コンサート等は中止や延期が繰り返されている。 発表機会を失うことにより、県内で文化芸術活動に取り組む団体や個人においてもモチベーションの維持が難しくなっている。 開館から15年が経過し、施設、設備の性能劣化や老朽化が進行している。また、舞台機器等について更新が進んでいない。 美術品収集基金について、買い戻しが凍結されているため、新たな美術品の購入ができない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年代にアピールできる魅力的な企画展を実施するため、指定管理者と連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。また、事業の効率化や基金の効果的な活用方法についても引き続き検討していく。観光部局、地域振興部局、その他関係機関とも連携し、アフターコロナに向けた広報活動についても検討する。 来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に修繕や設備の更新等を行う。 美術品取得基金の買戻し制度の充実等、好機に価値の高い美術品を取得できるよう環境改善を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		島根県民会館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び文化芸術団体など	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる		291,024	271,623
			うち一般財源 (千円)	119,242	109,574
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 文化事業 <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞事業(館内)劇団四季公演、名画劇場ほか(館外)地域ステージ、しまね映画祭ほか 育成事業(館内)ステージクリエイター次世代育成ほか (館外)アウトリーチモデル事業、文化芸術による子どもの育成事業ほか 創造事業(館内)インクルーシブ・シアター・プロジェクトほか (館外)しまね映画塾ほか 文化芸術活動支援 ・広報・利用促進 ・利用者サービス向上 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・県民が文化技術へ親しむ機会を提供するため、新型コロナウイルス対策を行ないながら事業を継続する。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】	目標値		170,000.0	102,000.0	170,000.0	170,000.0	170,000.0	人	単年度値
		実績値	135,170.0	34,542.0						
		達成率	—	20.4	—	—	—	—		
2	県民会館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		450,000.0	270,000.0	450,000.0	450,000.0	450,000.0	人	単年度値
		実績値	423,066.0	174,425.0						
		達成率	—	38.8	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者により、公演やアウトリーチ方式の育成事業等の文化事業を実施した。 視覚障がいのある方も参加する市民ダンスユニットを起ち上げた、8本の映像作品を収録・配信することができ、クオリティーも含め大変好評だった。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 自主公演は年度前半ではほぼ中止となったが、コロナ禍での感染症対策としてすべての公演で集客定員を収容人員の1/2以下とするなどの対策を講じて、年度後半は県域で多くの公演を実施することができた。 コロナ禍では、密を避けながらも作品やパフォーマンスを届ける手段として、映像配信が注目されている。当館自主事業でも公演映像の収録配信、ダンス映像作品の制作と配信、イベントや講演会のライブ配信などを実施して、そのノウハウや有効な活用方法を蓄積中である。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大によりイベントの中止やホール・会議室利用のキャンセルなどにより集客・施設利用に影響が生じている。 ホールの利用率が27%程度。 地域ステージ等の観客数の伸び悩み。 文化芸術活動の担い手不足。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化、舞台装置等の経年による陳腐化。 人口減少、文化芸術活動の担い手の高齢化。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 照明や吊り物等、舞台設備の計画的な改修や、充実した音響設備や客席とステージが近いことによる良さを生かした企画の検討。 館内のバリアフリー化による高齢者、障がい者等が利用しやすい環境を整備。 鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成への支援。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

社会教育課

事務事業の名称		青少年文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	児童・生徒	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。		6,694	8,676
			うち一般財源 (千円)	6,694	8,676
今年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・高校の文化部活動を活性化するため、島根県高等学校文化連盟(県高文連)に対し支援を行う。 ・全国大会に出場する部活動の激励や、全国規模の大会等で入賞した児童・生徒を顕彰する。 ・文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童・生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。 			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・発表会等の様子を撮影し、インターネット等で公開することにより、中学生を始めとする県民に高校生の文化部活動を広く知ってもらう機会を提供した。 			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	高校における生徒の文化部活動への参加率(県高文連加盟校)【当該年度4月～3月】	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	%	単年度値
		実績値	29.6	32.4						
		達成率	—	108.0	—	—	—	—		
2	青少年芸術文化表彰及び青少年児童生徒学芸顕彰の被表彰団体(個人)件数(R2年度からの累計)【当該年度3月末時点】	目標値		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	件数	単年度値
		実績値	95.0	37.0						
		達成率	—	52.9	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の高校生生徒数が減少傾向 H30:5,470人/18,271人⇒ R1:5,308人/17,902人⇒ R2:4,976人/15,334人 【県高文連加盟校における参加率】 H30:30.3%、R1:29.6%、R2:32.4% ・青少年芸術文化表彰(知事表彰)・青少年児童生徒学芸顕彰(教育長顕彰)件数 【知事表彰】 R2:第1期 なし 第2期:なし 【教育長顕彰】 R2:第1期 3団体 7個人 1指導者 第2期:2団体 24個人 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中においても、高校生の文化活動参加率は概ね横ばいで推移している。 ・開催大会が少なかったこともあり、全国大会に出場する児童・生徒数も減少し、芸術文化表彰や学芸顕彰の推薦件数が減少している。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の文化部活動の魅力が、県民に十分に伝わっていない。 ・顕彰制度への推薦件数が少ない。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の文化部活動の発表の機会が少ない。 ・各学校や保護者に対する、顕彰制度の周知が十分でない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の文化部活動活性化のため、引き続き、多様な方法で発表する機会を設ける。 ・顕彰制度について幅広く広報し、推薦件数を増やす。